



ビジネスを成功に導くための
コンピュータ選びと活用法

企業のための Macガイド



Mac Fan

特別編集

ゼロタッチ導入で全社Mac化を実現！ ソフトバンクロボティクスのIT環境整備術

「Pepper」をはじめとする業務用ロボットの企画・販売・運用を手がけるソフトバンクロボティクス株式会社では、2021年から業務端末として本格的にMacを導入。MDMを活用したゼロタッチ導入を実現し、グローバル全体での管理体制を効率化しています。Mac導入の背景と展開のプロセス、Windows PCとの併用について、プロダクト統括 技術本部の渡邊邦尚さんに伺いました。

全社員にMacを一括展開

MF ●まず、Mac導入前の社内PC環境について教えてください。

渡邊 ●以前は、ウィンドウズとMacが混在するCYOD (Choose Your Own Device) 型の環境でした。2021年にMDMツール「ジャムフ (Jamf)」を導入したことをきっかけに、アップル製品の一括管理による運用体制を整えました。現在では、グローバル全体で約800台のMacが稼働しており、ウィンドウズPCは約100〜150台程度。全社員の8割以上がMacを利用しています。

MF ●Mac一括導入に踏み切った背景には、どのような課題があったのでしょうか？

渡邊 ●以前のウィンドウズ環境では、1台あたりの手動キッティングに約4時間もかかっていたことに加え、海外拠点の拡大に伴い、セキュリティポリシーの統一や運用コストの最適化が大きな課題となっていました。ジャムフに



ソフトバンクロボティクス株式会社
プロダクト統括 技術本部 技術戦略統括部 技術企画室 室長 渡邊邦尚さん

よるゼロタッチ導入によって、macOSのパフォーマンスを最大限に活かしながら、社内ヘルプデスクの負担軽減も実現できました。

MF ●現在のMac端末のスペックについても教えていただけますか？

渡邊 ●現在は、メモリ16GBを搭載したMacBook Eを基本モデルとしています。ストレージはこれまで256GBが標準でしたが、今後導入予定のモデルからは、M4チップ搭載、512GBのストレージに切り替わる予

定です。また、業務内容によって高スペックな端末が必要な社員については、個別申請のうえ上位モデルを支給しています。

MF ●Macで利用する業務アプリの一例を教えてください。

渡邊 ●主に「マイクロソフト 365 (Microsoft 365)」を利用しており、開発チームでは「ブイエスコード (VSCode : Visual Studio Code)」を使用するケースもあります。ほかには、「ノーション (Notion)」などのナレッジ共有ツールも活用しています。

MF ●そのほか、ユーティリティツールなどの導入状況はいかがでしょうか？

渡邊 ●必要最低限のツールはキッティングの段階でインストールしていますが、ジャムフのセルフサービス機能を使って、社員が必要なツールを自分でインストールできるようにしています。また、セキュリティ部門と連携して、禁止アプリを事前に定義しており、不正なアプリが検出された場合は遠隔で削除を行っています。

MF ●Mac導入にあたって、

社員への教育やサポート体制はどのように整備されましたか？

渡邊 ●導入初期には「Macの操作が不安」という声もありましたので、Macの基本操作や社内アプリの使用方法をまとめたガイドを配付し、オリエンテーションも実施しました。加えて、社内問い合わせ対応の負担軽減を目的として、よくある質問をまとめたセルフサービス型のナレッジベースを整備しています。

MF ●導入後の社員の反応はいかがでしたか？

渡邊 ●導入当初は多少戸惑いの声もありましたが、すぐに「起動が速い」「バッテリーが長持ちする」など、Macの利便性を評価する声が増えていきました。今では「もうウィンドウズには戻れない」と言う社員も多くなっています。

ウィンドウズ環境も確保

MF ●業務によってはウィンドウズアプリの使用も必要かと思いますが、どのように対応されていますか？

渡邊 ●会計管理やロボット制御など、一部の業務ではウィンドウズアプリが必須です。そのため、仮想化ソフトの「パラレルス・デスクトップ (Parallels Desktop for Mac)」を導入し、Arm版ウィンドウズを仮想環境として利用しています。従来は別の仮想化ソリューションを使っていたのですが、セキュリティやパフォーマンスの観点からパラレルスへと移行した経緯があります。

MF ●仮想環境の管理はどのようにされていますか？

渡邊 ●パラレルス上のウィンドウズ環境は「マイクロソフト・インチューン (Microsoft Intune)」で一括管理しています。物理的なウィンドウズ端末と同じセキュリティポリシーを適用できるため、社内運用ルールを統一できる点が大きなメリットです。

MF ●セキュリティ面での工夫があれば教えてください。

渡邊 ●アップル製品はMDMソリューションとの組み合わせにより柔軟な制御が可能です。弊社でも社内セキュリティ

チームと協力し、常に最新のOSバージョンを対象としたセキュリティポリシーを定義し、全管理端末へ配付・監視を行うことで社内セキュリティの向上に取り組んでいます。

MF ●管理者視点でMac導入のメリットは何でしょうか。

渡邊 ●Macは初期構成やリモート管理の柔軟性が非常に高く、設定の一括配信やゼロタッチ展開などがしやすい点が魅力です。ウィンドウズでもできることはありますが、Macはよりシンプルかつ強力に実現できますので、セキュリティを保ちつつ管理工数をかけたくない企業には特におすすです。

MF ●今後のMac活用や運用体制の展望についてお聞かせください。

渡邊 ●今後は、ユーザからの問い合わせ対応の自動化や、アップル・インテリジェンス (Apple Intelligence) の活用にも注目しています。また、MacとiPhoneを軸にしたゼロトラスト環境の強化にも引き続き取り組んでいく予定です。

MDMを経由したゼロタッチキッティングにより、Macの全社展開をスムーズに実現しました。Macならではの速い起動やバッテリー持続性などが従業員から好評です。



「Parallels Desktop」の導入で、一部の業務に必要なWindows向けアプリも効率的に利用できる環境が整いました。



ソフトバンクロボティクス株式会社

ソフトバンクロボティクス株式会社は、2014年にいち早く人型ロボット「Pepper」を発表し、2021年に配膳・運搬ロボット、2022年に物流自動化ソリューションの展開を開始しています。これまでの多様な製品の取り扱いを通じて得た知見や稼働データを活かし、ロボットインテグレーター (RI) として先駆的な役割を果たしています。現在、世界9カ国に21の拠点を構え、グローバルでも製品を展開し、人とロボットが共生する社会に向けて邁進していきます。

🌐 <https://www.softbankrobotics.com/jp/>



業務用パソコンを企業導入する際、IT担当者にとって悩みの種となるのが機種選定です。統一したスペックのものを一括導入できるなら負担は少なくなります。が、たいいての場合は社内業務を洗い出して部署ごとに最適なモデルを、時には複数のメーカーから選定する必要があるでしょう。たくさんのメーカーから多種多様なモデルがリリースされているウィンドウズPCの場合、スペックや使いやすさ、コストなどさまざまな項目を比較検討して選び出すには労力がかかりがちです。

一方のMacはアップル社からしかリリースされておらず、ラインアップがシンプル、かつすべてのモデルが業務利用に十分な性能を備えるため、機種選定しやすいのがメリットです。現在リリースされているのは、MacBookエア、MacBookプロ、iMac、Mac mini、Macスタジオ、Macプロの6機種。今はリモートワークや働き方の多様化に対応するためにノートブックを貸与することが主流なので、「MacBookエアか、MacBookプロか」をまずは判断し、そのうえでスペックやコストに応じてモデル（MacBookエアには13インチ3モデル／15インチ3モデル、MacBookプロ

には14インチ6モデル、16インチ4モデル）を絞り込んでいけばいいのです。

変わらない使用感

こうした機種選定のしやすさは、端末調達時だけでなく、リプレイス時にもメリットをもたらします。以前の選定機種で問題がなければ、ベンダーや機種選びに時間をかけることなく、最新型を購入すれば済むからです。

また、端末リプレイス時にユーザの使い勝手が大きく変わらなない点もMacの大きな魅力です。ウィンドウズPCはベンダーやモデルによって使い方が大きく変わることがありますが、Macはたとえ最新型を導入しても、別のモデルに変更したとしてもユーザビリティが一貫しているため、従業員に余計な学習コストを生じさせません。端末のリプレイスや万が一の故障時に代替機を渡しても、ユーザが迷わずに使えることは、業務の生産性の面で大きな価値をもたらします。

デスクトップ

iMac

19万8800円～



ノートブック

MacBook Pro

14インチ:24万8800円～
16インチ:39万8800円～



MacBook Air

13インチ:16万4800円～
15インチ:19万8800円～



実際にMacを導入する企業のほとんどは、一般職向けにはもっとも安価な13インチMacBook Air（画面サイズを重視する場合は15インチ）、クリエイティブ職向けにはCPUやGPU、メモリの性能がより優れた14インチまたは16インチのMacBook Pro（必要に応じてメモリ量等をカスタマイズ）、デスクトップを希望する場合は、ディスプレイ一体型のiMac（4モデル）を選ぶ傾向にあります。ディスプレイが付属されないMac mini、ワークステーション並みの処理性能を備えたMac StudioやMac Proは、一般的な企業では一部の限られた用途向けです。



クリエイティブ職向けに、あえて持ち運びしやすい14インチMacBook Proを選択し、会社では外付けディスプレイに接続してデュアルディスプレイを利用している企業もあります。



MacBook AirやMacBook Pro、iMacは、ほぼ毎年または1年おきに同じ名称で新モデルが発売されます。仕様がアップデートされたとしても、全体的な使い勝手が変わることはなく、リプレイスの際もスムーズに使い始められます。

Macを選ぶ理由① Lineup

Macはラインアップがシンプル、機種選定がしやすい。



ノートブックならAirかProか、たったそれだけ！

INTRODUCTION

「ビジネスは絶対Windows」、そんな誤解をしていませんか？ Macの導入は企業にさまざまなメリットをもたらします！

現在、Macを導入する企業がどんどん増えています。「えっ、仕事にMac」と驚く人がいるかもしれませんが、今のMacはビジネスの現場においてさまざまな面でWindows PCよりも優れたパフォーマンスを発揮します。もし未だに「Macはビジネスに向かない」と思っているならば、そうした勘違いを今すぐ払拭しましょう。これから解説する「なぜビジネスにMacが最適なのか」の10の理由、そしてMac導入企業の事例を知れば、あなたの企業でもきっとMacを導入したくなるはずです。

Macがビジネスに適している10の理由

Lineup

1

Macはラインアップがシンプルで機種選定がしやすいため、比較検討に労力がかかりません。端末のリプレイスや故障時にも交換しやすく、ユーザの使い勝手も変わりません。

➡ 5P

Performance

2

Appleシリコンを搭載したMacは、かつてないほど高性能でバッテリーも長持ち。同等スペックのWindows PCと比較しても動作は軽快で、AI処理も高速にこなします。

➡ 6P

Cost

3

「Macは高価」は幻想です。Macの端末価格は「AI PC」と呼ばれるWindows PCとほとんど変わりません。また、「総所有コスト」で見ればMacのほうが実は安価です。

➡ 7P

Engagement

4

「従業員選抜制」を導入してMacも使えるようにすれば、従業員の生産性や満足度、ロイヤリティが向上します。人材の定着化や優秀な人材獲得にもつながります。

➡ 8P

Continuity

5

Apple製品はデバイス間の関係に優れます。MacとiPhone／iPadを関係させれば、より素早くタスクを片づけることが可能。従業員のパフォーマンスがさらに高まります。

➡ 9P

Security

6

MacそしてmacOSには、強固なセキュリティ機能が搭載されています。Windows PCと比較してセキュリティリスクが低く、データ侵害が削減された例もあります。

➡ 10P

Apps

7

Macの標準アプリはビジネスにも威力を発揮し、App Storeには仕事のためのアプリが豊富に存在します。そもそもクラウドサービスならプラットフォーム問わず使えます。

➡ 11P

Windows

8

もしMac非対応のアプリがあっても、MacではWindows OSも動きます。MicrosoftがAppleシリコン搭載MacでWindows 11を実行する方法を認定・紹介しています。

➡ 12P

Service

9

AppleはIT管理者が効率的にMacを企業導入するためのソリューションを用意しています。Windows PCとの混在環境でも「ゼロトラスト」をしっかり構築できます。

➡ 13P

AI

10

AppleのAI機能「Apple Intelligence」が日本語環境にも対応。普段の業務で自然に使えるから仕事をもっと捗ります。セキュリティとプライバシーの高さも強みです。

➡ 19P

Mac導入企業インタビュー

ソフトバンクロボティクス株式会社 ➡ 2P

本冊子は「Mac Fan 2025年7月号」の特集記事抜き刷りです。
記事の無断転載・転用・複写を禁じます
株式会社マイナビ出版 Mac Fan編集部

Windows PCよりサクサク動く。AI PCにも最適!



Appleシリコンの脅威のパワーとバッテリー性能

性能と電力効率を両立

Macを企業導入する最大の魅力と言っても過言ではないのが、「アップル（Apple）シリコン」の高いパフォーマンスです。2020年のM1チップ発表時はインテル製CPUを搭載したMacと比較してCPUは最大3.5倍高速、GPUは最大6倍高速、機械学習（ML）機能は最大15倍高速という脅威の性能が大きな話題になりました（当時最新のウィンドウズのノートブックPCと比較した際のCPUパフォーマンスは2倍）。最大10コアのCPUとGPUを採用し、最大32GBのユニファイドメモリに対応

する最新のM4チップではさらに性能が向上し、M4搭載MacBookエアはM1モデルよりも最大2倍高速です（最速のインテルベースのMacBookエアと比較した場合は最大23倍高速）。この最先端のパフォーマンスを発揮するMシリーズはMacのシステムに最適化されており、業務利用においても実にスピーディな動作とマルチタスクを実現します。実際にMacを導入した企業に話を聞くと、アプリの起動時間やレスポンス、ビデオ会議しながらの作業、重たいスプレッドシートを開くときなど日常業務のさまざまなタスクにおいて、スペックが同等の

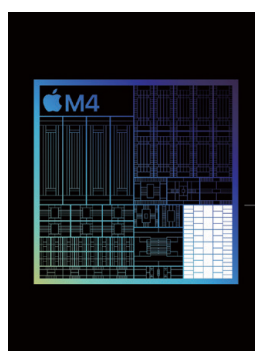
ウィンドウズPCよりも軽快に動作し、業務効率が高まったという声が上がります。また、優れた電力効率もアップルシリコンならではの大きな特徴です。M4チップを搭載したMacBookエアは、最大18時間（ビデオストリーミング）のバッテリー駆動時間を実現。外出の多い営業職はもちろん、リモートワークする際も電源コンセントのある場所を探したり、電源アダプタを持ち歩いたりすることなく、1日中作業できます。

AIや機械学習にも最適

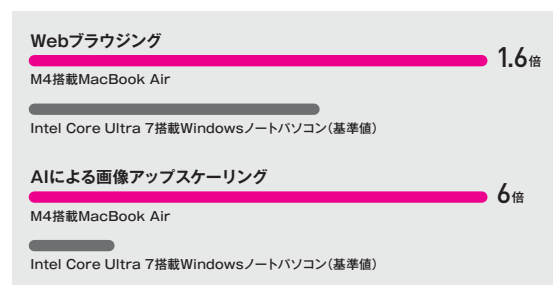
さらに、アップルシリコン搭載Macは「オンデバイスでの高速な機械学習」を念頭に置いて設計されている点も重要なポイントです。チップ内には機械学習の演算処理に特化した「ニューラル・エンジン（Neural Engine）」が搭載され、M4チップでは毎秒38兆回という驚異的な演算処理を実現しています。これはA11バイオニック（2017

年のiPhone 8等に搭載）に搭載された初のニューラル・エンジンと比べて60倍高速、M1チップ（毎秒11兆回）と比べて約3.5倍高速です。また、チップ内にはMLアクセラレータが設けられ、高性能GPUや高い帯域幅のユニファイドメモリと連携して、大規模言語モデル（LLM）やAI機能の処理に優れたパフォーマンスを発揮します。AIの処理をローカルで行う「AI対応PC」がビジネスの現場でも主流になることが予想される中、AIのためのパワフルなチップを搭載したMacは、その筆頭に位置づけられるのです。

Appleは、2020年後期に発売されたMacの一部モデルから、Intel製プロセッサを自社設計の「Appleシリコン」へ移行開始。現在はずべてのMacに搭載されています。Mac向けのAppleシリコンの名称には「M」が冠され、2020年に登場した初代M1を経て、現在は第4世代目のM4がリリースされています。



Macは熱効率や排熱に優れているので高負荷時でも本体が熱くなったり、ファン（MacBook Airには非搭載）が回ったりするさく感じることがありません。Windows PCと比較した際はこうしたポイントもユーザー体験の違いをもたらします。



Appleの発表によると、M4チップを搭載したMacBook Airは、NPU（Neural Processing Unit）搭載のIntel製ハイエンドプロセッサ「Intel Core Ultra 7」搭載のWindowsノートパソコンと比べて、Webブラウジングが最大60%高速、より負荷の高いタスクではパフォーマンスが最大2倍高速です。また、AIを利用した画像のアップスケーリングは6倍高速です。

<https://www.apple.com/jp/newsroom/2025/03/apple-introduces-the-new-macbook-air-with-the-m4-chip-and-a-sky-blue-color/>

総所有コストはWindows PCより安価。残存価値が高い。



長く使える設計だから未来の投資へつながら

「Macは高価」という幻想

端末価格は業務用パソコンを選定する際の重要なファクタです。事務作業向けのノートブックの相場は10〜15万円とされますが、ハードウェア構成の異なる多種多様な機種がリリースされているウィンドウズPCの場合、利用頻度やスペック次第ではより安価に購入できます。その一方で、MacBookエアの価格は16万4800円からとなっており、この点だけを見れば初期導入コストは一見高くなるようにも思えます。

しかし、端末の選定は企業のIT投資に対するスタンスに大きく左右されます。特に

近年は在宅勤務やDX推進によって法人向けパソコンの高性能化が薄く、軽いポータブル化が進んでおり、「AI PC」と呼ばれるジャンルではウィンドウズPCでも15万円を超える機種が存在します。実際にウィンドウズPCとMacを導入する企業に話を聞くと、同じスペックで揃えるなら「ウィンドウズPCもMacも変わらない、ほぼ同じ」という答えが返ってくるのがほとんどです。こうした企業に共通しているのは、従業員が最大のパフォーマンスを発揮できる環境をできる限り提供しようという考え方です。従業員の業務内容や経営層の考え方など

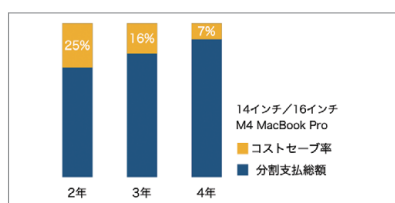
に左右されるため一概に安価な端末が悪いとは言えませんが、今の時代は多くの企業にとって端末コストがMac導入の障壁にはなりません。

TCOではMacが優位

また本来、業務用パソコンの導入は端末（ハードウェア）の価格だけで判断すべきではなく、OSやソフトウェア、周辺機器、サービス、運用・保守・サポートなどを含めた「総所有コスト（TCO）」で考えることが重要です。そしてこの観点から比較すると、実はMacのほうが安価であるという調査結果が公表されています。たとえばフォレスター（Forrester Consulting）社が2024年に発表した調査によると、Macを5年間使用した際は1台あたり547ドル（8万3000円）削減可能だったそうです。特にMacはウィンドウズPCと比べて「残存価値」が高く、リセールバリューが高い点が大きな要因となっています。

購入時の総支払額を下げる「Apple Financial Services」

Mac導入時は、リース返却時の残価価値を差し引いた金額で購入できる「Apple Financial Services：AFS」を利用して総支払費用を抑えられます。AFSは1〜4年の中短期でリース期間と使いたいデバイスを選択できるため、数年周期で最新モデルへ入れ替える際のライフサイクル管理が簡単になります。また、デバイスの資産管理や廃棄などにかかる実務をなくすことができ、デバイス返却後はAppleによって再利用やリサイクルが行われる点も魅力です。



<https://www.apple.com/jp/financing/>

	MacBook Air	Surface Laptop (第7世代)	Acer Swift Go 14	Dell Inspiron 13	Dell Inspiron 13	ThinkBook 13x Gen 4	HP Envy x360 14-fc
チップ	M4	Snapdragon X Plus	インテル Core Ultra 7 プロセッサ 155H	インテル Core Ultra 7 プロセッサ 155H	インテル Core Ultra 5 125H	インテル Core Ultra 5 125H	インテル Core Ultra 7 プロセッサ 155U
ディスプレイ	13インチ	13.8インチ	14インチ	13.3インチ	13.3インチ	13.5インチ	14インチ
CPU	10コア	10コア	16コア	16コア	14コア	14コア	12コア
GPU	8コア	8コア	8コア	8コア	7コア	7コア	4コア
メモリ	16GB	16GB	32GB	16GB	16GB	16GB	16GB
ストレージ	256GB SSD	256GB SSD	512GB SSD	1TB SSD	512GB SSD	1TB SSD	512GB SSD
価格	16万4800円	20万7680円	19万5999円 (Acer 公式オンラインストア価格)	16万7654円 (Dell公式ストア価格)	12万2386円 (Dell公式ストア価格)	16万4890円 (Lenovo公式ストア価格)	16万2800円 (ダイレクト価格) / 24万3100円 (HP希望販売価格)

Windows PCにもNPUを搭載したAIパソコン(AI PC)が登場しています。M4チップを搭載したMacBook Airと同じ13インチ程度のものを比較したところ、MacBook Airが決して高くはないことがわかります。

MacのTCOに関しては、Forrester Consulting社が詳しい調査レポート「The Total Economic Impact Of Mac In Enterprise」を公開しています。Macを5年間導入したときのサポート&運用コストは約3分の1、また4年間使用後の端末の残存価値はWindows PCの3倍と記載されています。
<https://tei.forrester.com/go/apple/tei/?lang=ja-jp>



Macを選ぶ理由④ Engagement

**従業員の生産性や満足度が向上！
人材採用にも効果あり。**



**「従業員選択制」採用で
Macを導入する企業が増加**

仕事もMacでしたい！

企業でMacを導入する理由として忘れてはならないのが、業務用パソコンの「従業員選択制」(Employee Choice)：従業員自らが使いたいデバイスを選択できる制度(の広がりです。「ビジネスではウィンドウズ」が当たり前だった頃は、入社時にウィンドウズPCを貸与されることが普通だったかもしれないが、そうした慣習も今は時代遅れになりつつあります。なぜなら、従業員が使い慣れたデバイスを利用できれば、業務の効率化や生産性の向上につながるからです。

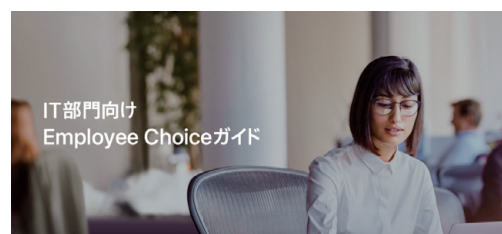
この従業員選択制が大きい

く注目されることになったのは、世界的なIT企業であるIBMが2015年に採用したことがきっかけです。Macを選択肢に加えたことでウィンドウズPCからの移行が増え、従業員の生産性や満足度の向上などにつながったという調査結果を発表しました。Macユーザー1人当たりの生産性が5%向上したというフォレスト社のレポート(The Total Economic Impact Of Mac In Enterprise: M1 Update)もあります。

企業の成長につながる

また、従業員選択制を導入

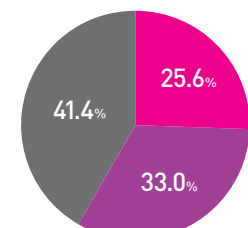
してMacを利用可能にすることは、従業員の定着率の向上や、慣れたデバイスを使うことで問い合わせの頻度が下り、サポートコストの低下が見込めるというメリットもあります。さらに近年は、学生時代や前職で利用していた引き続きMacで仕事をしたいと希望する人が増加傾向にあります。そのため、「Macを選べるようにすること」は従業員が働きやすい環境に投資していること、従業員の多様性を大切にしていることを印象づけるとともに、企業の成長につながる人材獲得の面で大きな効果を発揮するでしょう。



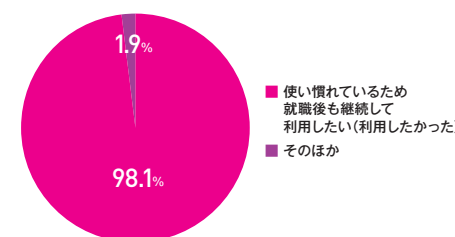
Appleが公開する「IT部門向けEmployee Choiceガイド」では、従業員選択制のメリットや開始方法が詳しく説明されています。
https://www.apple.com/jp/business/site/docs/resources/Employee_Choice_Guide_OriginalJan18_DEC2019_JP.pdf

Macは福利厚生にも 寄与できる

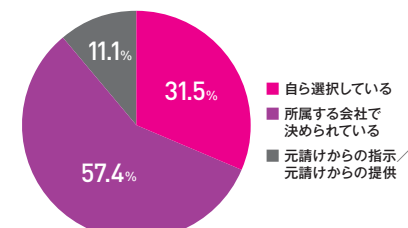
従業員選択制の採用と併せて、入社時に貸与されたMacをリプレースする際に、これまで利用していた端末を「返却するか、購入時よりも安価の価格で買い取るか」を従業員に選択してもらうプログラムを実施している企業もあります。Macは3～4年経っても最新OSを利用することができ、日常利用に十分な性能を備えます。そのため、たとえば家庭用や子ども用のパソコンとして使い続けることが可能です。従業員の働き方を変革するための従業員選択制に加えて、このようなプログラムを展開すれば従業員の福利厚生につなげることができ、端末を長く大事に使ってもらえるようになるでしょう。



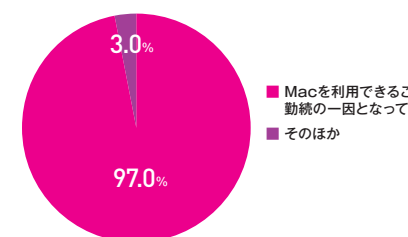
Windows PC利用ユーザ(n=782)に対してMacの利用意向を尋ねたアンケートでは約58.6%がMacに関心があると回答。従業員数101名～1000名の中堅企業においてMacの利用意向が高くなっています。



就職活動時や就職活動後のMacの利用意向を尋ねたアンケートでは、学生時代にMacを利用していた学生(n=156)のうち98.1%が就職時にも「継続して使い続けたい(利用したかった)」と答えています。



2022年に株式会社富士キメラ総研が行った調査によると、IT企業と事業会社(非IT企業)(n=1046)において業務用パソコンを「自ら選択している」と答えた人の割合は約31.5%となっています。



現在Macを利用している人(n=201)の中で、「Macを利用できることが勤続の一因となっている」と答えた人の割合は97.0%。Macを使えることが仕事を行ううえでのモチベーションの一端となっていることが窺えます。

Macを選ぶ理由③ Continuity

**iPhoneやiPadと
関係するから
素早くタスクが
行える。**



**シームレスにつながる
関係機能がApple製品の魅力**

より多くのことを簡単に

業務用スマートフォンやタブレットとしてiPhoneやiPadを採用している場合、Macの導入は従業員のさらなる生産性向上に寄与します。アップル製品には強力な連携機能が搭載されているため、MacとiPhone/iPadを一緒に利用することでデバイス間をシームレスに移動しながらスマートに作業できるようになります。たとえば、作業を別のデバイスに自動的に引き継げる「ハンドオフ(Handoff)」を使えば、iPhoneで書き始めたメールをMacで仕上げたり、Macで見ている

WebサイトをiPadで閲覧したりすることが可能です。iPhoneに引き継ぐ場合はAppスウィッチャーに表示されるアイコンをタップするだけで済み、いちいちファイルを探す必要はありません。また、「ユニバーサルクリップボード」もビジネスの現場で非常に役立つ機能です。iPhoneやiPad上で画像や動画、テキストをコピーし、近くにあるMac上でペーストすればデバイス間のコピー&ペーストが簡単に行えます。Wi-Fiネットワークに接続していなくてもデバイス間でファイル共有を行うことができる「エアドロップ(AirDrop)」も同様と

書類を共有したり、打ち合わせで訪れたクライアントに情報を送りたいときに便利です。

連携機能は制限可能

そのほか、iPhoneにかかってきた電話をMacで受け取ったり、iPhoneをWebカメラとして利用したり、iPhoneやiPadでスキャンした写真やスケッチをMacに自動的に取り込んだり、iPhoneのインターネット共有を利用してMacをネットワークに接続したりなど、アップル製品同士の連携機能は豊富に存在します。プライベートでMacを利用している人なら、その利便性を仕事でも享受したいと考えるのは当然です。

Mac/iPhone/iPadの主な連携機能

»ユニバーサルクリップボード

1台のデバイスでコピーした内容を別のデバイスでペーストできます。

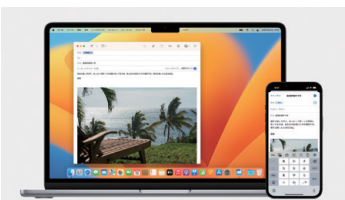


»Instant Hotspot

iPhoneやiPad(Wi-Fi + Cellular)のインターネット回線を利用してMacをネットワーク接続することができます。

»Handoff

作業を中断したところから別のデバイスでスムーズに作業が続けられます。



MacをiPhone、iPadと連携させればそれぞれのデバイスがシームレスにつながり、業務の効率化を実現できます。MacとiPhone、iPadの連携機能に関しては、Appleが公開するドキュメント「Apple製デバイスの連携機能と必要条件」に詳しく記載されています。

<https://support.apple.com/ja-jp/108046>

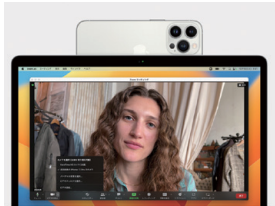
»連携スケッチと連携マークアップ

iPhoneやiPadでスケッチしたり、マークアップを追加したりすると、Macへリアルタイムに反映されます。



»連携カメラ

iPhoneをMacのWebカメラとして使うことができます。iPhoneまたはiPadを使ってMacで写真を撮る／書類をスキャンすることも可能です。



最先端のセキュリティ機能を搭載するから安全に使える。



インシデントやデータ侵害を減らしてセキュリティ強化

充実のセキュリティ機能

アップルはセキュリティとプライバシーを非常に重視してMacを設計しています。まずハードウェアレベルでは、アップルシリコンには世界トップクラスのシリコン設計チームが10年以上にわたり設計・改良を重ねたセキュリティ機能を搭載（カーネル整合性保護や高速許可制限、システムコプロセッサ整合性保護、ポインタ認証コード等）。また、「セキュアブート」を実現するためのブートROMや、ストレージの暗号化処理を行うAESエンジン、そして「セキュア・エンクレープ（Secure Enclave）」と呼ば

れるコンポーネントも搭載しています。中でもメインプロセッサから隔離されたセキュリティアプリシステムを搭載するセキュア・エンクレープはSOCと同じ設計原則で開発され、独自のBoot ROMとAESエンジン、メモリ保護エンジンを搭載し、生体認証であるタッチID（Touch ID）やフェイスID（Face ID）などの個人情報保護・管理するために利用されます。

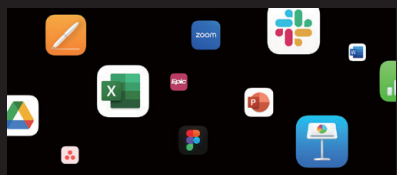
次に、システムレベルではブート時にシステムをマルウェア感染から保護する「セキュアブート」や実行時の悪質な改ざんを防止してアップルから提供された正規のソフトウェアのみ起動時に

読み込む「署名済みシステムボリューム」、最新のセキュリティアップデートを迅速かつ安全に取得・実行する仕組み、緊急セキュリティ対応「RSR」の実行、アップルシリコンのハードウェア機能を利用したOSの整合性チェックなど、起動プロセスからソフトウェアアップデート、システム実行中の処理に至るまで安全性がカバーされています。

ウィンドウズよりも安全

さらにアプリケーションに関して、アップストアではアップルが安全性を保証したアプリしか公開されないほか、「ゲートキーパー（Gatekeeper）」によってアップストアから入手したアプリ、またはアップストアと公証（マルウェアスキャンサービス）の認証を受けたデベロッパーが開発したアプリしか実行できないように制御可能。マルウェアなどを自動検出して削除するアンチウイルステ

パワフルなアプリを内蔵！仕事に役立つアプリがいっぱい。



今はクラウド時代、プラットフォームは選ばない

アプリには困らない

「ビジネスにはウィンドウズ、クリエイティブにはMac」といったイメージが浸透していた頃は「Macには業務用アプリが少ない」と思い込み、導入に踏み切れなかった企業があったかもしれませんが、それは大きな誤解であり、かつクラウドが浸透した今となつてはもはや間違った認識と言えるでしょう。

まずMacには「メール」や「カレンダー」「リマインダー」「メッセージ」「メモ」のほか、ワープロソフトの「ページズ（Pages）」や表計算ソフトの「ナン

バーズ（Numbers）」、「プレゼンソフトの「キーノート（Keynote）」、共同作業に適した「フリーボード」など、ビジネスにも大活躍するアプリが内蔵されています。

また、アップストアにはマイクロソフトの「ワード（Word）」や「エクセル（Excel）」、アドビの「アcroバット（Acrobat）」、「Webex」、「スラック（Slack）」、「Box」をはじめとする定番ビジネスアプリがひととおり揃っていますし、仕事効率化のためのアプリがサードパーティからたくさんリリースされています。iPhoneやiPad向けのアプリケーションを合

わせると、アップストアにあるビジネスアプリの数は23万5000を超えます。

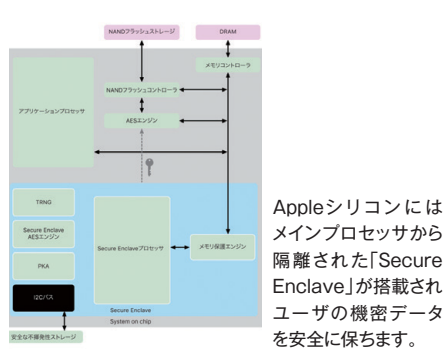
積極的にクラウドシフト

さらに現在は、「マイクロソフト（Microsoft）365」や「グーグル・ワークスペース（Google Workspace）」をはじめ、勤怠管理や経費精算、プロジェクト管理、ビジネスチャット、社内SNS、会計ソフト、CRM、SFA、名刺管理などのクラウドサービスがプラットフォームを問わず利用できる時代です。

そのため、Macを導入した企業に聞いても「アプリで困った」という話を耳にすることはほとんどありません。特にスタートアップ企業のようにイチからITインフラを構築する場合は、ウィンドウズにもMacにも対応したアプリ／サービスをベースにすることである業務に対応可能な環境を整えられるでしょう。

また、現在ウィンドウズにしか対応していないアプリを

クノロジーの「XProtect」や「MRT（Malware Removal Tool）」も搭載されています。ここではすべて解説できませんが、この結果としてフォスター社のレポート「The Total Economic Impact Of Mac In Enterprise: M1 Update」は、アップルシリコン搭載Macは従来のイン



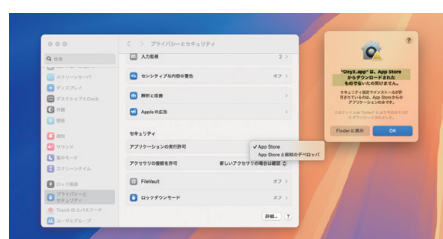
Appleシリコンにはメインプロセッサから隔離された「Secure Enclave」が搭載され、ユーザの機密データを安全に保ちます。

Touch IDによって指でタッチするだけで簡単かつ安全にロックを解除できます。アプリやWebサイトへのログイン、パスワードの入力などにも利用されます。



Macには「FileVault」と呼ばれるボリューム暗号化技術によるデータ保護、ファームウェアレベルでのパスワード保護、最新のセキュリティ認証に適合したさまざまなネットワーク保護、さらにはApple Accountや iCloud、Apple Payなどサービスレベルでのセキュリティ機能も多数搭載されています。詳細を知りたい場合は、Appleが公開する「Appleプラットフォームのセキュリティ」が役立ちます。
<https://support.apple.com/ja-jp/guide/security/welcome/web>

テルCPU搭載Macと比べてよりセキュアであると発表されています。また、MDMソリューションを組み合わせることでデータ侵害が50%削減されることなどを理由に、MacはウィンドウズPCと比較してより安全であり、企業のセキュリティを強化できると述べています。



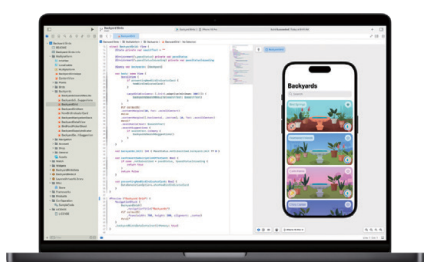
MacにはGateKeeperが組み込まれ、App Storeまたは公証を受けたアプリ以外を開けないようにできます。また、macOSが既知のマルウェアを検出した場合は通知を表示し、アプリをゴミ箱に移動します。

抱えていたとしても、Mac導入を機にプラットフォームを問わずに利用できるサービスへ切り替える、業務に影響のない部署からまずは導入して徐々にサービス転換を図る、または次のページで紹介するようにMac上でウィンドウズを動作させるといった対応策を取ることができます。

もし、それでもなおアプリ面で不安を感じるならば、インターネットなどでMac導入企業の事例を探してみるとよいでしょう。現在Macはさまざまな業種・職種で利用されていますから、自社に近い業界でMacの導入実績があれば大いに参考になるはずです。



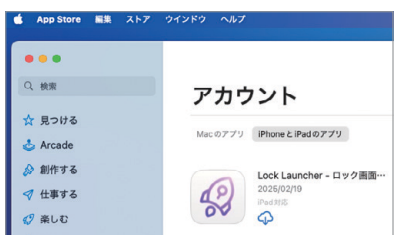
Microsoft 365やGoogle Workspace、Webexなどの定番アプリから、仕事効率化のアプリがApp Storeには多数揃っています。



iPhoneやiPad同様に、Macもカスタムアプリを開発して組織内だけに配付することができます。



MacにはApple純正のパワフルなアプリが内蔵されています。購入時から追加のアプリを購入しなくても、さまざまなビジネスに利用できます。



Appleシリコン搭載Macでは、iPhone／iPadのアプリも動作します。Mac版が用意されていない、iPhone／iPad向けに展開され、開発者が利用を許可していれば追加コストなしでMacでも利用可能です。

macOSに加え、MacではWindowsも動くから困らない。



Windows 365がParallels、お好みの方法で

Macならではの特権

Mac非対応のアプリケーションやプラグインなどがあっても、Macではウィンドウズを利用できます。

Macがアップルシリコンへ移行してからはCPUのアーキテクチャがArmベースに変更されたことで「ブートキャンプ」が利用できず、またArm版ウィンドウズのライセンスがマイクロソフトの製品群や一部のOEM製品での利用に限られていたため、仮想化ソフトを利用できない時期がありました。

しかし、2023年7月にマイクロソフトが方針を切り替え、アップルシリコン搭載

Macでウィンドウズ11を動作させることを承認し、現在は問題なく利用できるようになっています。

推奨される2つの方法

マイクロソフトが現在推奨しているのは、「ウィンドウズ365 (Windows 365)」を利用してクラウド上のウィンドウズ11を利用する方法 (MacのWebブラウザ、または「マイクロソフト・リモートデスクトップ」を介して利用)、「Parallels Desktop」を利用してアップルシリコンMac上の仮想環境でArm版ウィンドウズ

11 (プロまたはエンタープライズ) を実行する方法です。企業全体でウィンドウズ365を導入しているなら前者が利用しやすいでしょうが、そうでない場合やネットワーク接続なしでも利用したい場合は、昔からMac向けの仮想化ソフトとして定評のある「Parallels・デスクトップ」を利用するのが適しているでしょう。

このようにmacOSとウィンドウズというシェアの高い2つのOSを使えることは今になってもMacが持つ大きな特権です。そのため、ウィンドウズオンリーのアプリが存在するからといってMacの導入を躊躇う必要はありません。もちろんウィンドウズのアプリがMac上でもきちんと動作するかは事前に確認する必要があるものの、大きな問題がなかったことから、今では従業員に貸与する業務用パソコンをMacだけにしてMac非対応のアプリはParallelsで動作させた業務環境を大きく改善させた企業も出てきています。

導入・管理・運用に役立つ法人向けソリューションが充実!



ゼロトラスト環境で安全に管理・運用できる

ゼロタッチ展開が可能

アップルは、IT管理者がMacを企業で導入しやすいようにさまざまなソリューションを展開しています。まずMacを社内へ配備して管理・運用する際に欠かせないのが「アップル・ビジネス・マネージャ (Apple Business Manager: ABM)」です。

これはサードパーティのモバイルデバイス管理ソリューション (MDM) と連携する、IT管理者向けの無料のポータルサイト。アップルの承認を経て登録が完了すると、Macの企業導入に役立つさまざまな機能を利用できます。たとえば「自動デバイス

登録」 (ADE: Automated Device Enrollment) を利用すれば、MacのMDMへの登録を自動化でき、ユーザの手元に届く前にMacに触れたり事前設定したりすることなく、キッティングが可能です。そしてデバイス購入後は箱のままユーザに配付できる、いわゆる「ゼロタッチ展開」を実現できます。

この自動デバイス登録は、アップルやアップル正規販売点、通信事業者から新規に購入したデバイスのみならず、組織内にある既存のMacにも対応しています。アップルが無料で公開するiOS向け「アップル・コンフィギュレーター (Apple Configurator)」 (Apple Configurator)」

を利用すればアップルシリコンやアップルT2セキュリティチップを搭載したMacをABMに登録できます。

組織向けアカウントの作成

また、ABMではアップストアで販売されているアプリなどのコンテンツを一括購入できる「VPP (Volume Purchase Program)」も利用可能。MDMと連携させることで、入手したコンテンツをワイヤレスでインストール、アップデート、回収、再配付できます。アップルアカウント (Apple Account: (旧アップルID) を台数分取得する必要はありません。

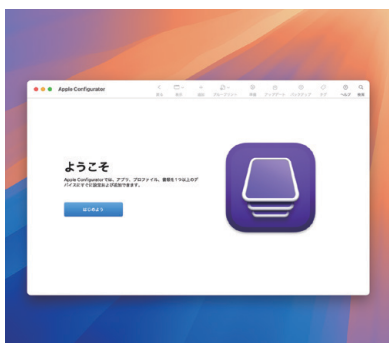
さらに、ABMでは「管理対象アップル・アカウント」も利用できます。MacでiPhoneやiPadとの連携機能を利用したり、純正ソフトで「共同作業」の機能を利用したりするにはアップル・アカウントが必要ですが、個人用のアップル・アカウントを利用するとIT管理者の把握が難しくなり、MDMの

はじめてMacを含むApple製品を企業導入する際は、Appleがオンラインで公開している「Apple プラットフォーム導入ガイド」が役立ちます。

🌐 <https://support.apple.com/ja-jp/guide/deployment/>

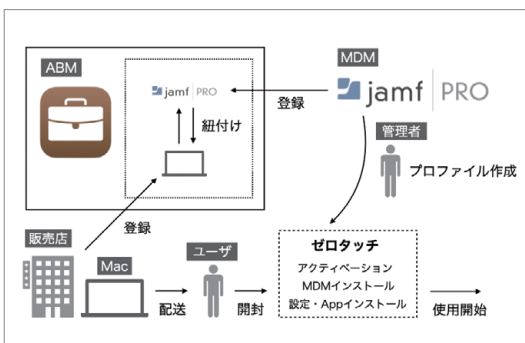
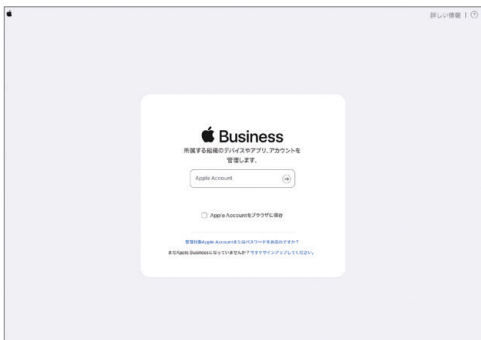
法人向けのABMを利用すると、Apple製品のMDM登録を自動化して購入後のセットアップを自動化できるADEや、アプリやコンテンツのライセンスの一括購入が行えるVPP、組織向けのApple Accountである管理対象Apple Accountsの作成やアカウント管理が利用できます。

🌐 <https://business.apple.com>



Apple ConfiguratorのMac版では、構成プロファイルの作成や配付、アプリの配信、監視モードの有効化、OSのアップデートや初期化、デバイス名や壁紙の変更等が行えます。また、iPhone版では、iPhoneやiPad、AppleシリコンやApple T2セキュリティチップ搭載のMacをABMに追加できます。

ABMとMDMを連携させれば、Macのゼロタッチ展開 (WindowsのAutopilot相当の機能) を実現できます。従業員がデバイスの初期セットアップを開始すると自動でMDMの管理下に入り、自社の設定や利用アプリが反映された状態で使い始めることができます。



MacでWindows 11を動かす2つの方法



- macOS上でMacのソフトと同時にWindowsを起動して利用できる
- Mac内にあるファイルをWindows側で開いたり、ファイルやフォルダをドラッグ&ドロップしたりと、Macとの関係にも優れる
- インターネット回線がない環境でも利用できる (Windowsアプリを使いたいときにいつでも使える)
- Windows 365を利用する場合はWindows 365のライセンスに加えてAzureのテナント等が必要になるのに対し、Windows 11とParallels Desktopのライセンスだけで済むのでコストを低く抑えられる
- Arm版Windows 11では「DirectX 12」や「OpenGL 3.3」以上に依存するハードウェアやゲーム、アプリに影響があるなど、一部動作に制限がある
- ビジネス版やエンタープライズ版にはMacの一斉展開や設定、一括管理など組織での運用をIT管理者が簡単に実行するための機能が多数搭載されている



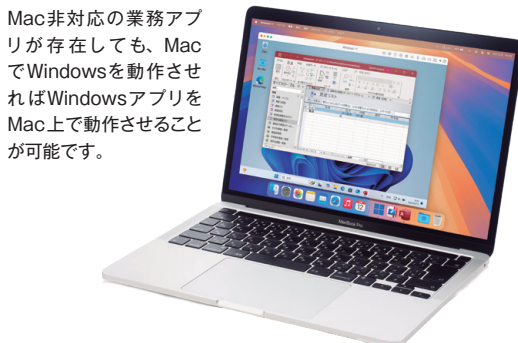
Windows 365

- MacからはWebブラウザ経由でリモートアクセスして操作する
- Mac用のリモートデスクトップアプリを利用すれば仮想化ソフトのようにWindows 11を1つのソフトとして利用可能
- Parallels Desktopで利用できるArm版Windowsのように機能制限がない
- Microsoftのクラウド (Azure AD) での管理・運用が必要
- クラウド上にホストしたWindows 11を利用するため、インターネット回線の接続スピードが十分でない場合はレスポンスが悪くなる。また、インターネット回線がないところでは利用できない。
- Macとの関係は基本的にあまり想定されていない



Microsoftは同社サポートサイトにおいて、AppleシリコンMacでWindows 11を動作させるための2つの方法を公開しています。

🌐 <https://support.microsoft.com/ja-jp>



Mac非対応の業務アプリが存在しても、MacでWindowsを動作させればWindowsアプリをMac上で動作させることが可能です。



Appleは企業のMac導入をサポートするために、システム構築ソリューションを提供できるパートナーをApple VAR (Value Added Reseller)として認定しています。

URL <https://www.apple.com/jp/business/contact/var/all.html>

アッブルはそうした企業に
対応するために、アッブル
製品に関する高い技術力と

 <https://www.apple.com/jp/support/professional/>



実績を持ち、製品導入やシステム構築、ソリューションを提供できる企業を「アップルV A R (Apple Value Added Reseller)」として認定しています。また、国内では展開されていない「アップル・プロフェッショナル・サービス (Apple Professional Services)」に準じた内容のP O Cサポートサービスを提供しているところもあります。導入に不安を抱える場合は、こうした企業にサポートをお願いすることでより安心してMacを導入できるでしょう。

 <https://www.apple.com/jp/support/professional/>

Macも「ゼロトラスト」でセキュアに業務利用できる!

一昔前までの企業のセキュリティモデルは、社内（内側）のネットワークとインターネットを分離してその境界線上でセキュリティ対策を講じるモデルが一般的でした。しかし、今日ではクラウド化やリモートワークの浸透によるセキュリティリスクの高まりに対応するため、ネットワークの内側／外側を区別することなく、会社の情報資産やシステムにアク

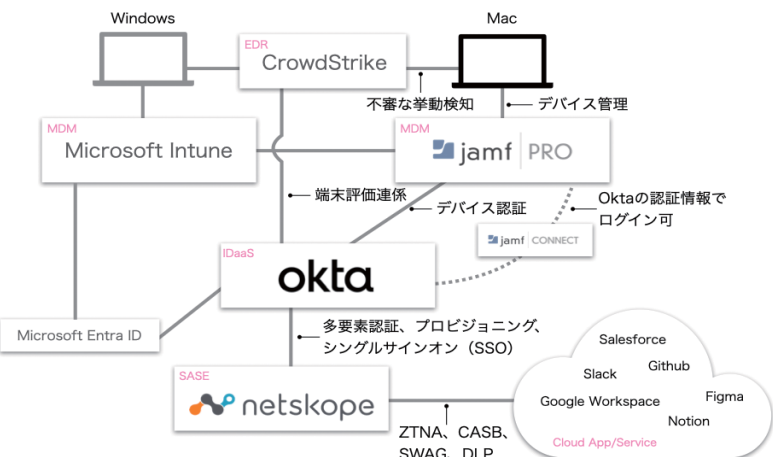
セスするすべてのものを信用せずに正当性や安全性を検証する「ゼロトラスト」モデルへのシフトが進んでいます。そのため、Macを導入する企業においてはWindows同様にゼロトラストを担保できるかが大きな関心事になりますが、Mac向けにはしっかりとしたゼロトラスト関連のソリューションが揃っています。

まずID統制・アカウント認証に関して

は、「Okta Workforce Identity Cloud」や「Microsoft Entra ID」など、いわゆるIDaaSによって認証情報を一元管理し、SSO（シングルサインオン）やMFA（多要素認証）、アクセスコントロールなどを行うことが可能。これにより正しく認証され、管理者の許可を得たユーザのみが重要な情報へアクセスできるようになります。

また、デバイス管理&デバイス保護に関しては、前述した「Jamf Pro」をはじめとする多数のMDMがMac向けにも展開されています。MDMをIDaaSと連携させれば、組織での利用が許可された安全なデバイスからのアクセスだけを許可する「デバイス認証」も可能です。「CrowdStrike」などのEDR(EPP)製品によってエンドポイントを監視して端末評価を行い、IDaaSと連携してデバイスポスチャによるアクセスコントロールを行うこともできます。

そしてネットワークセキュリティやクラウドセキュリティに関しては、ZTNA、CASB、FWaaS、SWAG、SD-WANといった機能を統合して提供する「Netskope」や「Zscaler」などのSASEソリューションがMac向けにも展開されているほか、Jamf社のように1社でそのための包括的なソリューションを提供しているケースもあります。



MacとWindows PCの混在環境におけるゼロトラスト構築モデルの概略(一例)です。ほかにもゼロトラストを構成する要素はありますし、どのような構成にするのか、またどのソリューションを導入するのかは企業によって異なるもの、Macはゼロトラスト環境下においてセキュアに管理・運用することができます。なお、Macにログインする際は、ID&パスワードまたは生体認証(Touch ID)のどちらかがデフォルトですが、Jamf Connectを使えば、Microsoft 365などのアカウントを使ってMacのログインに二要素認証を利用できます。

Macの管理にはジャムフ

アップルはABMを通じて
IT管理者をサポートするさ
まざまな機能を提供していま
すが、ADEやVPP、管理
対象アップル・アカウントを
利用するには、Macに組み
込まれたアップルのMDM
フレームワークに対応する

トの割り当て確認や編集、削除、ロックの解除、パスワードリセットなども行えるようになります。「マイクロソフト・エンタープライド (Microsoft Entra ID)」や「グーグル・ワークスペース (Google Workspace)」、対応IDPと連携して作成すれば、それらのアカウントでアプリのサービスにログインして利用することもできます。

制限がない場合は各自が自由にアプリをインストールでき

多数の対応製品がリリースされる中、もっとも定評があるのは、アップル・ファーストを掲げ、2002年創業時から20年以上に渡りアップル製品向けの管理ソリューション

社の「ジャムフ・プロ (Jamf Pro)」です。その大きな特徴は、構成プロファイル (パスコードやWiFi、セキュリティポリシーなどの各種設定) の作成や配付、アプリの自動インストールやライセンス管理、デバイスへのコマンド送信 (リモートロックやワイプ、パスコード消去など)、デバイス情報 (OS のバー

で同日対応を果たしている点も大きな魅力です。そのためたとえウィンドウズとMacの混在環境においても汎用的なMDMではなく、「Macの管理にはジャムフ」とこだわって採用する企業が国内でも後を絶ちません。

また、ジャムフ社はマルウェア対策や振る舞い検知、セキュリティイベントログの収集、コンプライアンス維持などが可能な「ジャムフ・プロテクト(Jamf Protect)」、ゼロトラストネットワークアクセスやクラウドPと連携したMacのアカウント管理を行える「ジャムフ・コネクト(Jamf Connect)」も展開しています。エンドポイントデバイスに対するセキュリティ要件が年々高まりMDM単体では情報セキュリティの担保に限界がある中で、これらのソリューションをジャムフ・プロと組み併せて利用すればMacの包括的なセキュリティ対策を実現できます。Mac向けにジャムフ・プロとジャムフ・プロテクト、ジャムフ・コネクトを

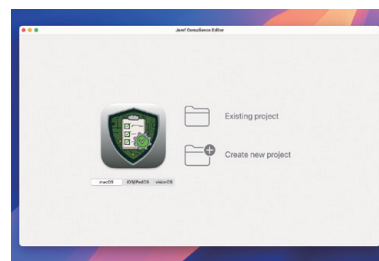
パッケージ化した「Jamf for Mac」が2025年3月からリリースされており、この単一ソリューションを導入すればよりシンプルに環境構築が可能です。

なお、「macOSセキュリティ・コンプライアンス・プロジェクト（MSCP）」をベースに開発された「ジャムフ・コンプライアンス・エディター（Jamf Compliance Editor）」もジャムフ社は展開しています。この無料アプリを利用すると、MSCPで公開されているセキュリティフレームワークに準拠した独自のセキュリティガイドラインをGUIで作成可能。それをジャムフ・プロヘアップロードすれば簡単にデバイスに適用できるほか、ジャムフ・プロまたはジャムフ・プロテクトを使ってコンプライアンスへの準拠状態を常に監視することができま

このように現在では企業にMacを導入するうえで必要

URL <https://support.apple.com/ja-jp/guide/certifications/apc322685bb2/web>

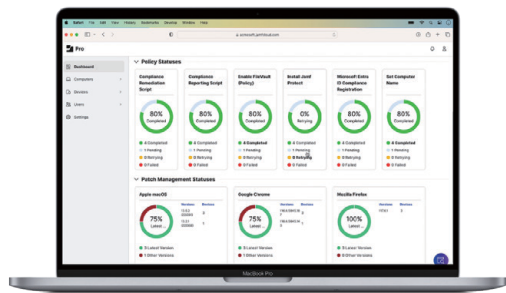
mSCPは、企業のセキュリティガイドラインを作成するのに役立つオープンソースの取り組み。アメリカ国立標準技術研究所(NIST)、アメリカ航空宇宙局(NASA)、CISベンチマークなどのフレームワークがGitHub上で公開されており、IT担当者は独自にカスタマイズして自社のガイドラインを作成できます。Macに不慣れなIT担当者でも、セキュリティポリシーに準拠したうえで安全にMacを導入でき、OSのバージョンアップ時などにも手間をかけることなく、セキュリティガイドラインを適用し続けられます。



URL <https://trusted.jamf.com/docs/establishing-compliance-baselines>

MacはOS-デバイスレベルのセキュリティが万全ですが、組織運用においてはその可視化が欠かすべません。セキュリティポリシーのベースとなるガイドラインはJamf Compliance EditorやmSCPを利用して作成し、Jamf Proで配付。そしてさらにJamf Protectを利用すればコンプライアンスの準拠状態の確認や、macOS内蔵のセキュリティフレームワークの可視化なども可能になります。

Macのデバイス管理とセキュリティを統合したJamfのソリューション



Jamf for Mac

■ Jamf ■ 個別見積りも(最小25デバイスから、年間一括払い)
■ <https://www.jamf.com/ja/>

Mac管理における悪循環

これまで日本の多くの企業でMacの導入が進まなかった背景には、従来の業務用デバイスやツールの多くがウィンドウSPC向けに最適化されすぎていたという事情があります。この傾向は大企業ほど顕著で、従業員からのMac導入ニーズが高まっているにもかかわらず、常にMacは少数派のまま。その結果として、IT部門もMacの導入・運用に関する知見を蓄積しづらく、導入が進まないまま経験不足が続く「悪循環」に陥っていました。

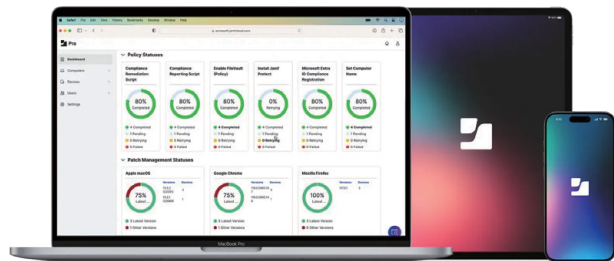
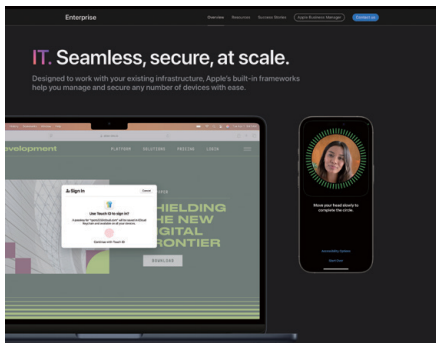
オールインワンに進化

2002年の創業以来、アップル製品向けのMDM(モバイルデバイス管理)を提供してきたジャムフは、企業が直面するMac管理のさ

さまざまな課題を解決するため、同社の製品群を再編したオールインワン製品「Jamf for Mac」の提供を2025年3月に開始しました。この新たなソリューションの最大の特徴は、あらゆる規模・業種におけるアップルデバイスの管理をサポートするだけでなく、エンドポイントの脅威検知(EDR)やクラウドベースのID管理、ゼロトラストネットワークへの安全なアクセスなど、現代の企業に求められる最新のセキュリティ要件にも対応していることです。

さらに、ジャムフは大企業向けだけでなく、モバイルデバイスや初等・中等教育機関など目的や業界に特化したソリューションも展開しており、アップル製品の導入を検討しているあらゆる組織・団体にとって最適な選択肢を提供しています。現在、世界で約7万6000社が導入し、3300万台以上のアップルデバイスを管理しているジャムフのソリューションについて詳しく見ていきましょう。

企業でのMac一括購入の場合は、「Apple Business Manager」とJamf Proと同期することで、デバイス登録や初期設定、業務に合わせたセットアップなどのキッティング作業を簡略化した「ゼロタッチ導入」が実現します。



約20年以上のAppleデバイス管理の実績により、JamfではMac以外にもiPhoneやiPadなどのモバイルデバイスのほか、Apple WatchやVision Pro、Apple TVもサポートします。

従来のMDM機能に加え、業務利用に必要なセキュリティや既存のサービスとシームレスに統合できるのもJamf for Macの特徴です。

組織内にあるMacのハードウェアやソフトウェア、セキュリティ設定などの詳細なイベント情報を自動収集できるほか、レポート作成や追加のライセンス情報なども一元管理できます。



Macの管理とセキュリティ強化を実現できるJamf for Mac

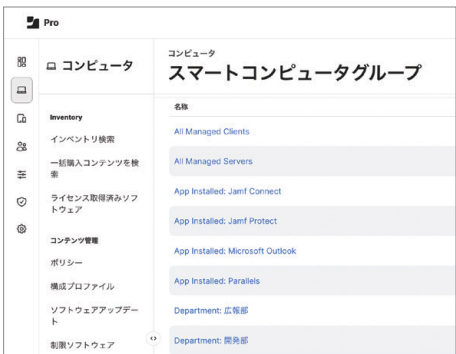
Mac管理をシンプルに

Jamf for Macは、企業におけるMacの適切な管理とセキュリティを一つのプラットフォームに統合したオールインワンのソリューション。

Macの登録やポリシー設定、ソフトウェア管理などのMDM機能は「Jamf Pro」が担い、デバイスの状況監視や脅威への対応などのセキュリティ機能は「Jamf Protect」が提供しています。

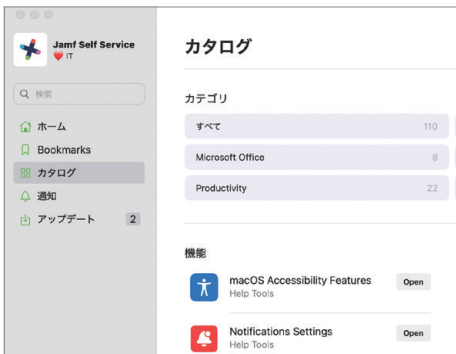
さらに、クラウドIDP(アイデンティティ・プロバイダ)と連携し、認証ユーザのみがいつでもどこでも安全に社内外のネットワークにアクセスできるゼロトラストネットワークの構築には「Jamf Connect」が活用されます。

●デバイスと設定をスマートに管理



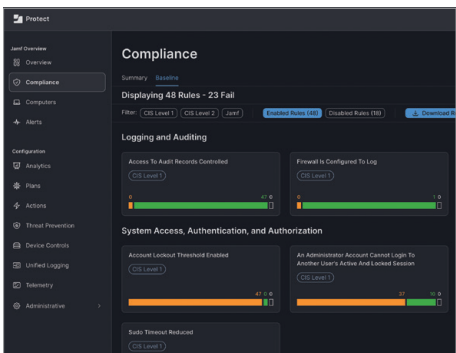
システム設定などのデバイス構成を構成プロファイルとすぐに配付可能。デバイス条件に合わせてグループ化する「スマートグループ」にも対応しています。

●組織専用のアプリストアが作れる



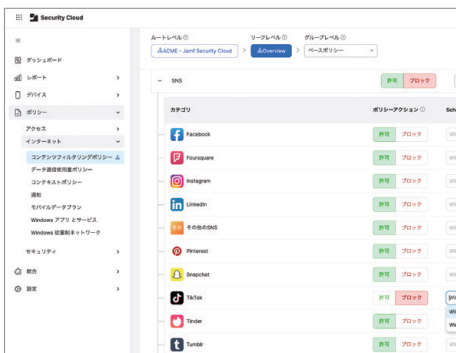
「Self Service+」では、組織専用のアプリストアを用意して業務で利用するソフトや電子書籍、ブックマークなどを掲載できます。

●セキュリティの状況を可視化できる



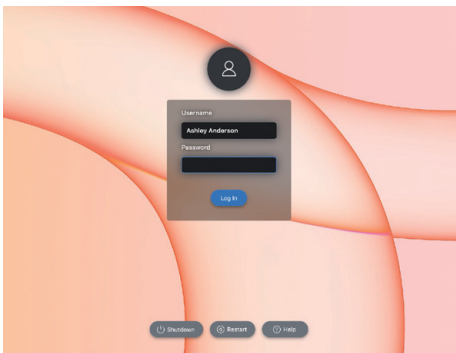
macOSに最適化された「Jamf Protect」により、マルウェア対策やUSBメモリ接続制限などのセキュリティ機能が提供されます。

●豊富なコンテンツフィルタリング



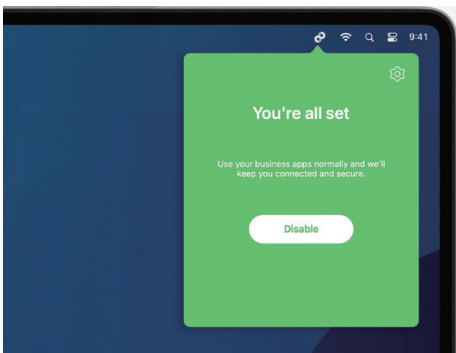
Webからの脅威も常時保護されているため、従業員はサイバー攻撃の脅威を心配せずに作業できます。また、ブロックの結果はわかりやすく通知されます。

●ログインウィンドウを変更できる



MacのログインIDをGoogle WorkspaceやMicrosoft Entra ID、OktaなどのIdPと統合することで、アカウント管理をシンプルにしてセキュリティも強化できます。

●認証されたユーザのみアクセス許可



Appleデバイスのために設計された次世代VPNでのアクセスにより、ユーザ体験を維持したままリスクのレベルに応じて接続を制御できます。

デバイス管理

MDMの機能は「Jamf Pro」が担い、業務に必要なソフトウェアのインストールやセキュリティ設定などを自動で実行できます。これにより、従業員はMacのパッケージを開封するだけですぐに利用を開始でき、IT担当者はMacに直接触れることなく「ゼロタッチ導入」を実現できます。さらに、サードパーティ製ソフトの最新バージョンの調達・配付の自動化や、企業独自のアプリストアを提供できる「Self Service+」の機能も備えており、Macの導入から運用までを一元管理できます。

セキュリティ対策

Mac向けのエンドポイントセキュリティ機能「Jamf Protect」では、macOSに内蔵されたセキュリティフレームワークを活用し、マルウェア対策や振る舞い検知、セキュリティイベントログの収集などによる多層的な防御が可能です。さらに、インターネット経由のコンテンツフィルタリングやデータ通信量のモニタリングにより、通信の安全性を可視化することもできます。これらのセキュリティ機能により、従業員はフィッシング詐欺をはじめとするさまざまな脅威から保護されます。

安全なアクセス制御

「Jamf Connect」により、Macのアカウント管理や社内ネットワークへのアクセスをシンプルに制御できます。具体的には、macOSのログイン画面をMicrosoft Entra IDやOktaなど主要なクラウドIdPの認証画面に置き換えたり、メニューバーからMacのパスワードとクラウドIdPのパスワードを同期したりできます。さらに、クラウドIdPとユーザ認証の連携によって、場所を問わず許可されたIDのみが安全にアクセスできるゼロトラストネットワーク環境を構築可能です。

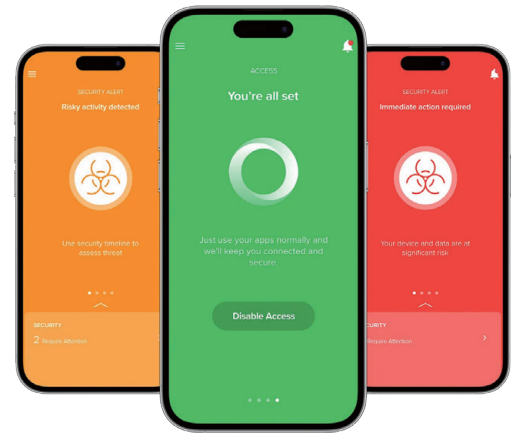
iPhone・iPadとJamf for MobileでモバイルDXを推進しよう

現場の多様なニーズに対応

企業のMac導入や管理に最適なJamf for Macとは別に、iPhone・iPadなどモバイルデバイス向けソリューションとして「Jamf for Mobile」も提供されています。Mac版ジャムフと同様に、アップル製品に最適化された導入と初期設定の支援、セキュアな運用管理をワンパッケージで実現できます。

また、デスクワーク以外の現場作業など、モバイルデバイスならではの利用シーンにも対応しているのが特徴です。1台のデバイスを複数の従業員で利用する「共有デバイス」としての運用にも対応しており、さまざまな業務の現場で柔軟に活用できます。

●モバイルデバイスのさまざまな脅威に対応



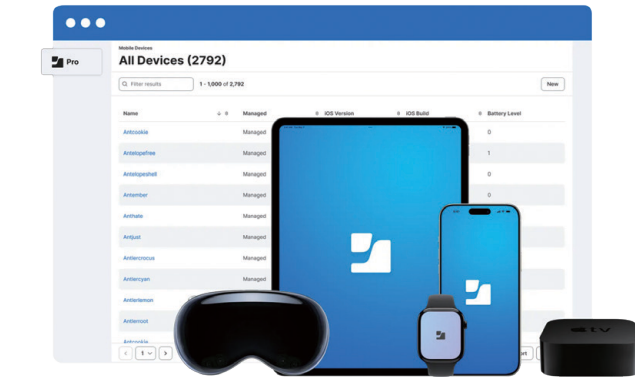
スマートグループ機能を使った分類や、グループごとに最適な構成を柔軟に適用できるため、Webフィルタリングや情報漏洩防止といったセキュリティ設定が、それぞれの業務に最適な形で自動で適用されます。

●組織のコンプライアンスに合わせて管理できる



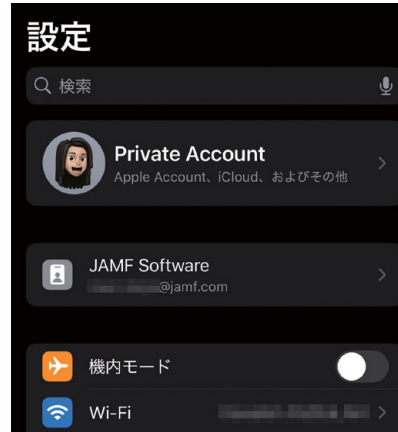
「Jamf Compliance Editor」の機能で企業が定めたコンプライアンス要件を管理者が簡単に設定できます。リスクのある疑わしい挙動についてはただちに対応し、修復を試みる事が可能です。

●Vision ProやApple Watchの管理もできる



「Jam for Mobile」では、iPhoneやiPadをはじめAppleデバイスの一元管理をサポート。2025年7月からはAndroid向けのMDM機能にも対応しています。

●BYODへの対応で多様な働き方をサポート

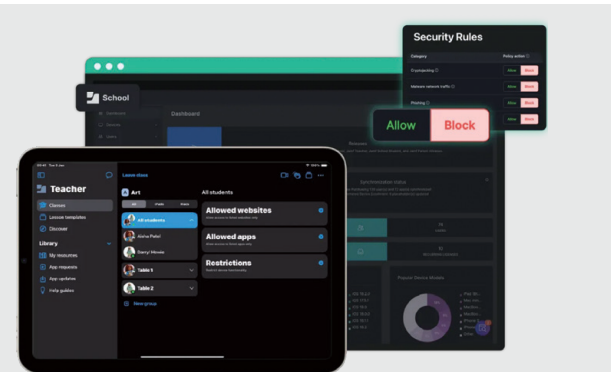


個人利用するApple Accountと、企業の管理対象Apple Accountの領域を分離することで、BYOD (Bring Your Own Device) 利用においても業務で利用するデータやアプリなどの情報を安全に管理できます。

「Jamf for K-12」で教育現場の管理を効率化

Jamfでは、学校教育機関向けのソリューションとして「Jamf for K-12」を提供しています。「K-12」は米国における教育用語で、日本では小学校から高校までの初等・中等教育機関がこれに該当します。主にGiGAスクール構想で導入されたiPadの管理やセキュリティ対策、児童・生徒の学習支援に活用されています。

ITに詳しくない担当者でも扱いやすい設計となっており、複数の学校や学年にまたがる運用にも柔軟に対応できるのが大きな特徴です。また、「Apple School Manager」との連携により、年度ごとのクラス編成の更新もスムーズに行えます。さらに、「Jamf Teacher」を活用することで、教職員が児童・生徒のiPadをリアルタイムで制御し、学習への集中を促すことも可能です。



学校教育で利用するAppleデバイスの管理やセキュリティ対策、授業に役立つ教材やアプリの配付などに利用できます。

自然に使えるAI

業務効率化や生産性向上、ミス軽減、人材不足解消などを目的にビジネスにAIを活用する動きが急速に広がっています。しかし、会社全体に浸透させることの難しさや利活用促進に課題を抱えているIT担当者も多いでしょう。そうした中で、Mac導入企業に大きなメリットをもたらすのが、2025年3月末から日本語環境でも利用可能になった「アップル・インテリジェンス」です。

このアップルのAI機能はmacOSに統合され、メールやメモ、サファリ(Safari)、ページズ(Pages)などの



アップル純正アプリのほか、ワードやエクセル、パワーポイントなど普段利用するアプリで「自然に使えること」が大きな特徴です。ビジネス文章を推敲したり、メールやメッセージ、通知を要約したり、メモから録音しながら文字起こししたり、日々のタスクをよりスピーディに行うための手助けをしてくれます。AIを利用するために別のツールを起し上げたり、難しいプロンプトを入力したりすることなく、AIの力を業務にスムーズに活用できます。

安全なデバイス内処理

アップル・インテリジェンス

スのもう一つの大きな特徴が「安全に利用できること」。特にビジネスでAIを活用する場合、入力情報が学習データとして利用されるリスクや従業員が意図せず情報を漏えいするリスクなどが懸念されますが、アップル・インテリジェンスはできる限りの処理をオンデバイスで実行します。また、より多くの処理能力を必要とするリクエストは「プライベート・クラウド・コンピュータ」(Private Cloud Compute)で処理され、このサーバはアップルシリコンで動作し、高度なクラウドセキュリティを担保します。ユーザのデータはアップルが保存・共有せず、ユーザのリクエストに応えるためにのみ使われます。

そしてもう一つ、アップルインテリジェンスはOSに内蔵されているため追加費用がかからず、「無料で利用できる」点も大きな魅力です。そのため、コストパフォーマンスに優れた生成AIの入門ツールとしても気軽に導入できます。

Apple Intelligenceでできる主なこと

● 作文ツール

文章の作成や校正、要約、推敲が行えます(他社製アプリを含め文章を入力する場面で利用可能)。

● 優先通知

届いた通知の中からユーザにとって緊急度の高いものを要約して表示してくれます。

● 優先メッセージ

「メール」アプリで緊急メッセージを受信ボックスの上部に表示します。

● スマートリプライ

「メール」や「メッセージ」アプリに届いたメッセージの回答の候補を提示し、数回クリックするだけで素早く返信メッセージを作成できます。

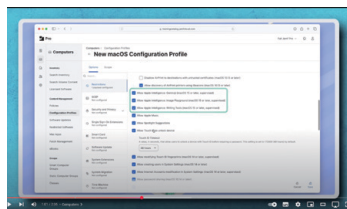
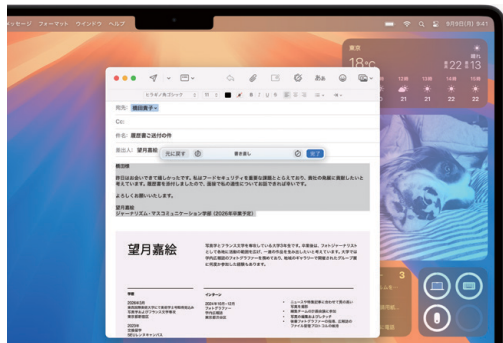
● 音声の録音と文字起こし

「メモ」アプリなどで録音した内容の自動で文字起こし。要点やタスクリストの作成などが簡単に行えます。会議の場で大活躍する機能です。

● 画像生成

「Image Playground」アプリを利用して画像を生成。「メッセージ」や「フリーボード」などでもImage Playgroundを利用できます。

Apple Intelligenceで現時点で利用可能な主な機能。このほかにも「写真」アプリで画像から邪魔なオブジェクトを削除したり、「ジェン文字」と呼ばれるカスタム絵文字を作成することも可能。今後も多くの機能が追加されます。



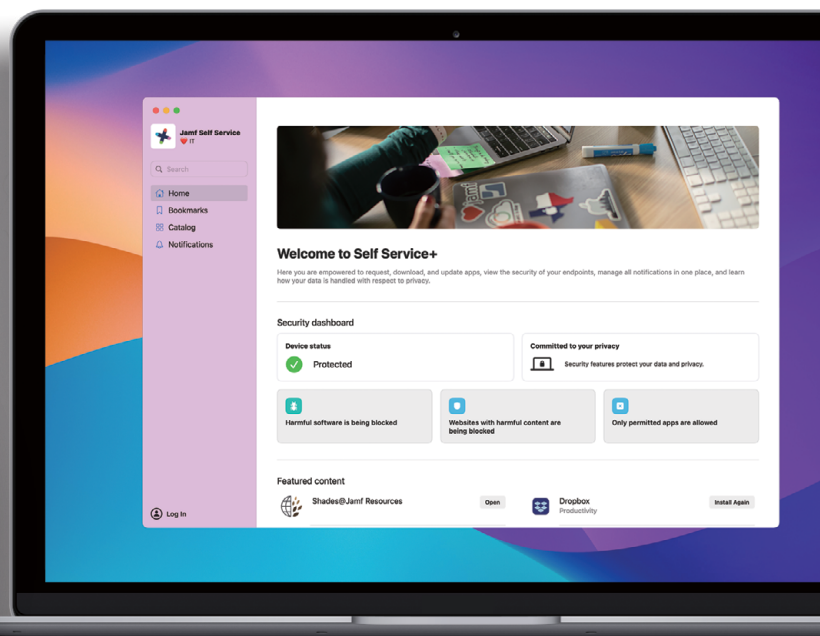
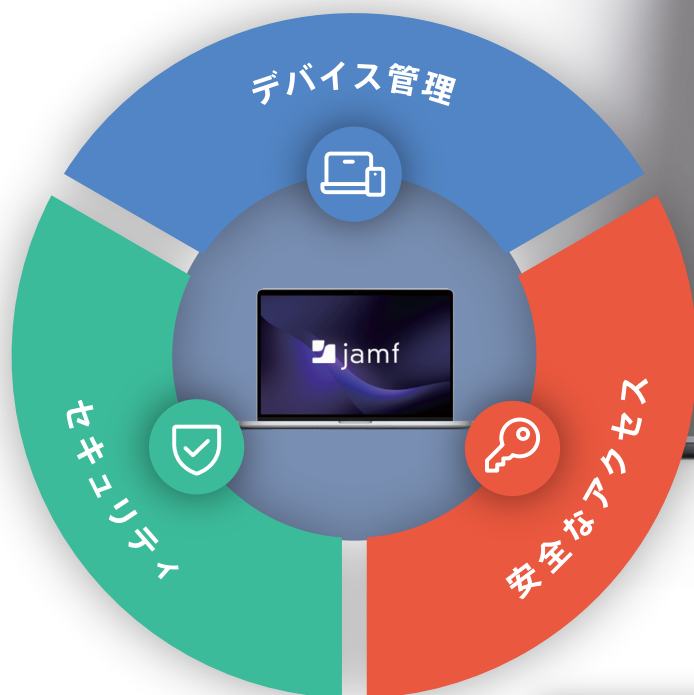
Apple Intelligence自体の利用は制限できませんが、Jamf Proなどの対応MDMを利用すれば機能ごとにコントロールできます。
<https://www.youtube.com/watch?v=FayjJI9S3kl>



Siriや作文ツールからChatGPTを利用することも可能です(ChatGPTへのアクセスは無料で、アカウントの作成も不要)。ChatGPTのアカウントにサインインせずに利用する場合は、ユーザのIPアドレスが匿名化されるほか、OpenAI社はリクエストを保持したり、AIモデルのトレーニングに使用したりしません。

Mac向け オールインワンソリューション Jamf for Mac

Macの管理とセキュリティを効率化
セキュリティ課題を解消
どこにいても安全なアクセスを実現



リモートワークや外出中の従業員のデバイスも、リアルタイムで状態を把握し、適切な管理を行います。
また、Macの高いセキュリティをさらに強固にし、安心・安全なデバイス運用を実現します。

デバイス管理



アプリやツールの一斉配布から自動アップデートまで、すべてを一元管理。

セキュリティ

～ 脅威防御・コンテンツフィルタリング ～



マルウェア対策やフィッシング対策など、Web上の様々な脅威からデバイスを守ります。

安全なアクセス

～ ID / アクセス管理 ～



パスワードを同期して、特定のユーザーしかアクセスできない状態に。



Jamf Japan合同会社

〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-1-1 神谷町トラストタワー25階

お問い合わせ
japan@jamf.com

Jamf for Mac

検索



製品ページおよび無料トライアルはこちらから